

負荷試験, 他の下垂体ホルモン低下からは下垂体機能低下症の合併が考えられた。

5) Germinoma による尿崩症に糖尿病を合併した若年女性の1例

渡辺 資夫・片桐 尚
荒川 道・中川 理
谷 長行・柴田 昭 (新潟大学第一内科)

症例: 24歳女性, 86年 Germinoma にて放射線療法を受けた後, 汎下垂体機能低下症, 渴中枢障害を生じ, 高 Na 血症を繰り返していた。91年急激な高血糖 (893 mg/dl) で糖尿病を発症。95年, 糖尿病, 高 Na 血症の治療のため入院した。入院時 HbA1c 9.8%, Na 162 mEq/l。入院後 insulin 療法にて高血糖を是正し, 続いて高 Na 血症の是正に努めた。尿中 C-peptide は入院時 13.0 μ g/日, 血糖コントロール改善後 39.5 μ g/日, さらに高 Na 血症の是正により 108.2 μ g/日と改善が認められ, 最終的には食事療法のみで血糖は正常化した。

考案: 高 Na 血症の上昇は短期的には insulin 分泌刺激に働くとされるが, 本症例では慢性的な高 Na 血症によって β 細胞機能の疲弊をきたした可能性が考えられた。

6) 46X, Xq⁻, を認めた NIDDM の1女兒例

高橋 秀雄・橋本 尚士
川崎 琢也・菊池 透 (新潟大学小児科)

今回我々は学校検尿を契機に NIDDM と診断され, 染色体検査にて 46, X, der (X) t (X;5) (q13.3; q22.3) を認め, 精神発達遅滞, 低身長を合併した1女兒例を経験した。家族歴は父が境界型糖尿病, 祖母が NIDDM, 入院時15才9カ月, 身長 144.5 cm. (-2.51 SD), 体重 44.7 kg (+2.5%), 骨年齢12歳7カ月, 性成熟度は pubic hair, breast とともに Tanner 1度だった。翼状頸, 外反肘, 桶状胸といった Turner 徴候は認めなかった。腹部エコー所見では軽度脂肪肝, 子宮の高度萎縮が認められた。検査上, 原発性性腺機能不全パターンをみとめたが E2 は思春期レベルにあり, 現在月経の発来はないものの, 乳房の肥大, 恥毛の出現を来している。

7) 閉経後婦人に対するホルモン補充療法による Lp (a) の変化

八幡 哲郎・倉林 工
本多 晃・東條 義弥 (新潟大学)
山本 泰明・田中 憲一 (産科婦人科)

8) CETP 欠損症ホモ型の1家系

三井田 孝 (新潟大学
検査診断学)
星山 真理 (柏崎中央病院
内科)

症例は34才の男性。父が58才で心筋梗塞で死亡, 母が高脂血症。検診で TC 232 mg/dl, TG 48 mg/dl, HDL-C 164 mg/dl と高コレステロール血症を指摘され受診。自覚症状なし。多量のアルコール摂取なし。アキレス腱肥厚なし。アポ蛋白 (mg/dl); AI 247, AII 38, B51, CII 8.9, CIII 29.8, E 15.8。超遠心法 (mg/dl); VLDL-C 2, LDL-C 54, HDL2-C 175, HDL3-C 13。apoAI, CIII, E と HDL2 の著増を認めた。3% PAG ディスク電気泳動で polydisperse LDL と HDL の著増あり。PCR-SSCP 法による CETP 遺伝子解析により, イントロン14の splice donor site の G→A 変異のホモ型であることが判明した。母は同変異のヘテロ型であった。

9) 一過性低 Na 血症を繰り返した Rathke 嚢胞の1例

田村 哲郎・渡辺 徹 (新潟大学脳研究所)
田中 隆一 (脳神経外科)
田辺 肇 (白根健生病院内科)
小野寺 理 (同 神経内科)

【はじめに】Rathke 嚢胞は多くは無症状であるが, 時に下垂体前葉機能低下や尿崩症などの内分泌症状を来することがあり, 通常不可逆性である。今回我々は一過性の低 Na 血症を繰り返し, 副腎皮質機能不全によると思われた症例を経験したので報告する。【症例】70歳女性。'93.10感冒様症状とともに全身倦怠, 食欲低下あり, 白根健生病院受診し低 Na 血症 (122 mEq/L) を指摘され, 加療を受けた。その後3回同様の症状が出現した。精査の結果二次性副腎皮質機能不全として9.12.当科紹介。血清Fは2.5, 17 OHCS は0.4と低値の他 PRL が若干高値である以外甲状腺機能は正常。ACTH 負荷試験でFは反応し, SU test では低反応と判断された。CT 上鞍内に CE (-) の低吸収域が, MRI では鞍内